



## ときには、僕らも旅しよう。 Tokiniha, Bokura mo Tabishiyou.

大石麻央 Mao OISHI

**作**者は、主に羊毛を使って動物などのマスクを被った人物の立体作品を作っているアーティストです。マスクを作者が被って作品になったり、来場者がマスクを被って参加する作品も展開しています。

今回は、六甲ケーブルのマスクを被った人物の立体作品を、六甲ケーブルの中に展示するという作品です。作者が作品と同じ扮装をして、六甲山上を旅する映像も一緒に展示をします。普段は沢山の人を運んでいる六甲ケーブルが、作品の中では六甲山を旅するという作者のやさしいユーモアが込められています。



## ここにいるよ We are here

岩谷雪子 Yukiko IWATANI

**屋** 外展示を中心とした作品展の六甲ミーツ・アート 芸術散歩。

大型で迫力のある作品も人気がありますが、目立たなくひっそりとしているながら本質的な訴求力を持つ作品も見逃せません。

作者は植物を採集し、乾燥させて様々な作品を制作するアーティストです。今年は初夏から複数回六甲山に来場し、六甲高山植物園を中心に植物を採集、高知市のアトリエに持ち帰って作品化、再び六甲山に展示しました。その作品はともすると見過ごされがちな植物そのものの造形的な魅力を見だし、独自の感性で再構成したものの。

私たちに気づきを与えてくれる重要な作品です。



# Palette - big horn sheep

植松琢磨 Takuma UEMATSU

北 米大陸に生息する大きな角をもつ羊、big horn sheep の造形物が白い部屋の中にあります。その表面にはカラフルな水彩絵の具が配置されています。鑑賞者は用意された筆を用いて、このパレットから絵の具を取り、周囲の壁に絵を描くことができます。絵を描く時にはなにかを考えて絵の具を取り、その感覚を絵に反映させますが、その思考の流れがパレットと壁の絵の間に見えない痕跡を残します。行為と時間の集積によって見えない痕跡が空間を満たし、変化していく彫刻作品です。



# 仏壇ポートレート

Portrait of Buddhist altar

German Suplex Airlines

風間天心 Tengshing KAZAMA

本 年8月に行われた「阪神なんば線ミーツ・アート in あまがさき Produced by 六甲ミーツ・アート 芸術散歩」、本作品は作者がそこで披露した新作をバージョンアップさせたものです。

永平寺で修行した僧侶でもある作者が、各地の家庭の仏壇を撮影したポートレート。ふだんは家々の奥に静かに存在する仏壇が青空の下に展示されました。家々が多様であるように仏壇からも個性が読み取れるでしょうか。価値観やライフスタイルの多様化に伴って、仏壇の文化は失われつつあると作者は考えています。この作品は記録としての意味も併せ持っています。



# 錦鯉ヘッド

Head of the nishikigoi

葎村太一 Taichi YOSHIMURA

作 者の作品のモチーフにはしばしば魚の頭部が用いられていますが、本作品は鯉の頭部です。本展が 10 回目の記念展であることからお目出たい錦鯉が選ばれました。しかもサイズは御覧の通り特大です。本年7月半ば、梅雨の明けない大阪郊外で巨大な楠木と対峙するところから制作が始まりました。そして猛暑の夏、巨木と向かい合った彫刻という行為の成果が作品になりました。作者は「自分が大成するには、数々の困難を乗り越えなければなりません」と語っています。そのエネルギーは鑑賞者に伝わるものだったでしょうか。